2月の表紙を描いて下さったのは
小学3年生、AKB48が大好きなかわいい女の子です。
大変ありがとうございました。御礼申し上げます。

豊郷 Tachikawa Clinic
たちかわ皮ふ科クリニック

今月号では、触れなければ何も事が起こらないでしょうが、あえて触れることにした内容です。

私が親しくさせて頂いている複数の方から、当クリニックの職員の言動について、同じ内容の、建設的なご指摘を頂きました。痛い所を突かれたと言わざるを得なく私自身以前から気になっていた「泣き所」でもあります。それもこれも全て私が未熟者であるが故に職員の教育指導が万全ではないという事が最大の理由で、来院して下さる患者さまにご迷惑をかけることが何よりも申し訳ないことだと思っております。

中国春秋時代に斎国の威王と魏国の恵王が偶然狩り場で出会った時の会話だと聞いています。恵王は威王にこう語りかけました。

「私の国は小国だが他国にはない立派な宝物がある。それは強い光を放つ珠で、車の前後十二乗分まで照らす珠が十枚もある。貴国にはどんな宝がありましょうや？」威王はこう答えました。

「私の国にはそういうものはありません。しかし優れた家来がいます。ある家来に城を守らせたところ隣国楚は恐れて攻め入らず。ある家来に砦を任せたところ、趙は黄河で漁をしなくなった。こうした家来が自分の持ち場で一隅を照らし、国を支えてくれている。これが私の宝です。」そう威王は言いました。

つまり強い光を放つ珠十枚が国宝なのではなく、一隅を照らす者が国宝なのだと。その後、この話は日本において「最澄」が『山家学生式』という書物にまとめている。「古人曰く、径寸十枚、これ国宝に非ず。一隅を照らす、これ則ち国宝なり」と。論語を研究しておられる伊與田覺先生によれば、「一隅を照らす」というとちっぽけと思われるかも知れないが、自ら光り周囲を照らすことは甚だ深い意味があると話されています。

昨年 12 月、妻と職員が東京で開かれた美容学会に出席するために“みどりの窓口”に並んでいた時のこと。盲目の男性（白い杖を持った）が、切符を買いたいが、列が分からずいると、ある人に最後尾に並ぶよう指摘された。だがその最後尾がどこか分からない。うろうろしていると、さっとある女性がその男性に声をかけ手を取り列の最後尾まで誘導しました。その女性はうちの職員でした。この事を私は後で妻に聞かされたのですが、この行動は他の人には出来そうで出来ない彼女の良さであり、美しさなのだと思いました。

美容学会に行くと顔や肌がきれいで、振り返りたくなる看護師は結構いるものです。しかし中には講演中にも拘らず、髪の手入れをしたり、コンパクトを出し化粧を直したりと「お前一体何しに来たの？」と目を背けたくなる様な看護師もいます。結構そういう看護師が有名なチェーン展開している美容外科の看護師だったりもします。

当クリニックも美容皮ふ科を掲げているので、全職員には美しくして欲しいと思うことも事実です。しかしながら「心の美しさや素直さ」はその人格であり、正に先程の「一隅を照らす」にふさわしいことなのだと思います。例えば、会社でどんな立派な役職を持っていても、それは会社という光に照らされている上で自分も光っているのではないでしょうか。職場を離れた時、一人の人間として光れば本物なのかも知れません。

クリニックの中で業務中に患者さまに親切にできる、これは当然でありごくありふれたこと。先程の職員の「一隅を照らすもの」はクリニック以外で出た行動であり、彼女らしい優しさなのだと私は思います。

又、私自身も彼女に照らされているのだと思うのです。こんな職員と共に今年も「豊郷たちかわ皮ふ科クリニック」は成長していきます。

皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

院長：刀川